

製品名: COL12A1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09166**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	COL12A1
別名	COL12A1; COL12A1L; Collagen alpha-1(XII) chain
遺伝子 ID	1303.0
SwissProt ID	Q99715
免疫原	抗血清はヒトコラーゲン XII α 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1481-1530

背景

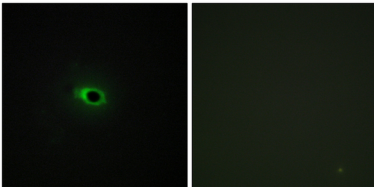
この遺伝子は、FACIT（断続的な三重らせん構造を持つ線維関連コラーゲン）コラーゲンファミリーに属する XII 型コラーゲンの α 鎖

をコードしています。XII型コラーゲンはI型コラーゲンと共存するホモ三量体であり、この共存がI型コラーゲン線維と周囲のマトリックスとの相互作用を変化させると考えられています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008年7月]、代替製品: コラーゲンXIIの最終的な組織形態には、アイソフォーム1またはアイソフォーム2のホモ三量体、またはアイソフォーム1とアイソフォーム2の任意の組み合わせが含まれる場合があります。、機能: XII型コラーゲンはI型コラーゲン含有原線維と相互作用し、COL1ドメインは原線維の表面と関連している可能性があります。、COL2およびNC3ドメインは原線維周囲マトリックスに局在している可能性があります。、PTM: 配列モチーフGXPG内のプロリン残基の水酸化は、脊椎動物における4-ヒドロキシ化の要件に適合するため、4-ヒドロキシである可能性が最も高いです。、PTM: アイソフォーム1のO-グリコシル化。コンドロイチン硫酸型のグリコサミノグリカン。、PTM: 三重らせん末端は、各末端のジスルフィド結合により安定化されています。、類似性: FACIT (fibril-associated collagens with interrupted helices) ファミリーに属します。、類似性: 1つのTSPN末端(TSPN)ドメインを含みます。、類似性: 18個のフィブロネクチンIII型ドメインを含みます。、類似性: 4つのVWFAドメインを含みます。、サブユニット: それぞれが190kDaの非三重らせん配列を含む同一鎖の三量体。、組織特異性: コラーゲンIを含む組織に存在し、アイソフォーム1とアイソフォーム2はどちらも、羊膜、絨毛膜、骨格筋、小腸、および真皮線維芽細胞、ケラチノサイト、内皮細胞の細胞培養に存在します。アイソフォーム2のみが肺、胎盤、腎臓、および扁平上皮癌細胞株に認められます。アイソフォーム1は角膜上皮ボウマン膜(BM)および角膜実質の線維間マトリックスにも存在しますが、角膜輪部BMでは検出されません。

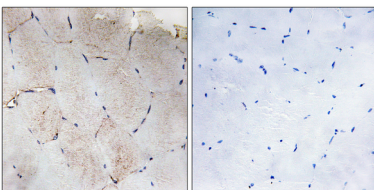
研究分野

細胞生物学

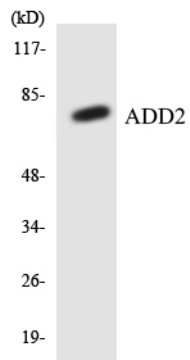
画像データ



コラーゲンXII α 1抗体を用いたCOS7細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



コラーゲンXII α 1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



ADD2 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタン ブロット分析。